

Rotary

イマジン
ロータリー

IMAGINE ROTARY



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

<http://www.ri2550uerc.gr.jp/>

会 長 加藤 勝朗

幹 事 塚越 淳史

会報・雑誌委員長 関 元明

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ

例会日 毎週火曜日(12:30~)

事務局 ホテルニューイタヤ内 宇都宮東ロータリークラブ TEL.028-638-5125 FAX:5128

通算2993号 2023年3月28日(晴れ) 第35回例会 会員数110名

夜間例会

点 鐘 加藤 勝朗 会長
司 会 副SAA 中山会員

◇ロータリーソング「我等の生業」

※マスクを着用し、心の中で斉唱

◇本日のディナー 小付 天麩羅 海の幸グラタン
牛肉のピザオール風 デザート 御飯 香の物

ビジター紹介

細谷副会長

◇宇都宮東ローターアクトクラブ
パスト会長 盛合 一功様

◇米山記念奨学生

ラグワスレン, アマルサナー君 (アマラ君)

◇卓話講師 螺良会員の秘書 きくち あつお様



会長挨拶

加藤 勝朗 会長

皆さん、こんばんは。先月の2月9日に市内10クラブのIMがありました。第一部で『自クラブ公共イメージ活動報告』があり、各クラブ会長が発表しました。私からはマスコミに何回取り上げられたかとか、SNSでフォロワーが何人いるとか、「いいね」が幾つ付く、とかの数字を追うのではなく、日々の草の根活動が公共イメージの向上につながるの意見を述べました。どんな立派な奉仕の理念を説いたところで、職場ではパワハラ、自宅ではDWに明け暮れるようでは、同じロータリアンとして恥ずかしい限りです。

第二部では山形崇倫自治医科大学小児科学教授の「こどもの難病に対する新しい治療～遺伝子治療の発展～」の講演がありました。その中で、栃木県が全国に先駆けて新生児の遺伝子病の検査無料化が実現する、との報告があり、小児科学会で大変な話題となったそうです。山形先生によると、これはひとえに当クラブの螺良会員の尽力による

ものだそうです。当クラブの会長として、全国初の誇れる仕事をした会員がいたことを知らなかったことに、恥ずかしい思いをしました。本日の卓話ではその辺のお話を伺いたと思います。螺良会員、よろしくお願ひします。

◇奨学金の授与

米山記念奨学生

ラグワスレン, アマルサナー君



幹事報告

塚越 淳史 幹事

◇トルコ・シリア大地震被災地への募金について 第2550地区で送金ルートが確立されたことを受けて当クラブからも義援金を送りたいと思います。 ※募金箱を各テーブルに回す。

◇来週4月の第一例会より、会場が天平の間からコロナ禍前の南館4階桜の間へ移る。

◇4月20日(木) 18:30~ホテルニューイタヤにて新旧委員長引継ぎ会議開催。委員長が欠席の場合は代理をお願いします。



委員会報告

◇ロータリー財団委員会

石川委員長

トルコ・シリア大地震義援金について、R財団よりマイロータリーからも寄付ができる旨の連絡がありました。まだ登録されていない方もご登録いただき、ご寄付のご協力をお願いいたします。ポリオ、ウクライナの関係も、マイロータリーから寄付が可能です。



卓 話

「2550地区 第3グループA B IM報告」



螺良 昭人会員

皆さん、こんばんは。先程、会長からお話がありました山形さんは、ご近所の幼なじみで、30年位お付き合いがなかったのですが突然、「自治医科大学の教授の山形です。」という電話がありました。自治医科大学は遺伝子治療に関して最先端の大学で、山形崇倫教授は、そこで先頭を切って研究を続けています。「実は、新生児のマススクリーニング検査に関して県にいろいろお願いに行ったところなかなか取り合ってくれません。」ということでした。山形先生からいろいろなお話を聞かせていただきました。

新生児のマススクリーニング検査自体は20の病気を対象に、すでに国の補助を得ながら県と国でお金を出して実施されていますが、新たにここ2年間、免疫不全と脊髄性筋萎縮症(SMA)に関する遺伝子病に対するスクリーニング検査が、独協や自治医科大学等の病院で研究事業という形で、無料で行われました。これにより、栃木県では2例発見されました。一人目は治療がうまくいって、すくすくと成長しています。もう一人は今、治療中です。生まれたばかりの時に発見されて治療に入ると、治療がもう確立されているので、ほとんど健常児に近く成長しますが、生まれた時に見つけないと、細胞がやられてしまい、後から治療しようとしても、薬は現状を維持することはあっても、治すという効果はないとのこと。「首の座りが悪い」「寝返りを打たない」等、子供には個体差があり、脊髄性筋萎縮症にはそうした症状もあるので、気が付かないという場合も多いということでした。気が付かないと2年位で命を失うことがある、そういう遺伝子病ということで、「これを救うために、(研究事業終了後も無料の)マススクリーニング検査を続けてほしい」ということでした。

すぐに、執行部の保健福祉部等にどのように考えているか聞いたところ、「今後国の動向を見な

がら考えていきたい」という答弁でした。12月の会議で、私が自民党議員会として代表質問をさせていただきました。1回目の質問において知事をお願いしたのは、「こうした新生児のマススクリーニングの検査は、将来を担う子供たちを救うことになる素晴らしい検査で、治療法も確立しているのだから是非とも続けてやるべき」と質問させていただきました。答えたのは保健福祉部長で「知事から、知事会で、全国均一ですべての子供たちがこの検査を受けられるようにすることが大切。全国の知事をひっばって、国に提案している。」ということでした。私はその場で、「国の動向ではなく、栃木県が率先してやることはできないのか考えてほしい」という要望をさせていただきました。また、自民党の政務調査会に公式に自治医科大学の院長と山形さんから、現状の小児医療の取り組みやこのマススクリーニング検査がどれだけ必要かの話をして貰いました。私は、このための予算を一步も引かず通そうと話しました。

予算折衝の時期になり、財政課長から「この予算を認めます、と知事から言われました。素晴らしい予算だと思います。」という答えが戻ってきました。新聞社、マスコミも後押しをするように「全国をリードする英断!」「無料で全ての子どもたちに検査したのは唯一栃木県だけ」と新聞に取り上げていただきました。「全国で評価の高い予算になっているし、子育てするなら栃木、まさにその通りだよ。」とか「幼い子ども達の命を救う予算だったよね。」とマスコミの方からも言われました。私が政治家として予算に関わってきた中でも忘れられない予算の一つです。私が医療支部で講演をしようとした時に、小児科医の先生から「本当にありがとう」と感激して言われた時には、本当に良い予算だったと今でも思っています。弱い人たち、将来の子供たちを守るための予算をつくることは、権限を与えられた我々の本当の仕事と改めて考えさせられました。そして、その思いを持って常に行動するべきだと思っています。今回IMでその話を出していただいたことは嬉しく、認めて貰うこともありがたいので、そういった思いを含めて、今日はお話をさせていただいたことを深く感謝申し上げます。

※無料の新生児のマススクリーニング検査に、免疫不全と脊髄性筋萎縮症(SMA)が追加された経緯の新聞記事を資料として配布

乾 杯 小林利延パスト会長